

# 特許検索競技大会からみた特許検索力

## — 社会人でも参加可能なスチューデントコースの受験結果から —

Patent Search Abilities as seen from the results of the Patent Search Grand Prix

一般財団法人工業所有権協力センター（IPCC）企画室企画部推進課課長／弁理士

向山 麻衣

令和4年4月より現職

✉ tanaka-mai@ipcc.or.jp

☎ 03-6665-7877

### 1 はじめに

特許検索競技大会は、J-PlatPat 等の特許検索ツールを用いた検索作業などの問題を解いて、特許調査の実務能力を競う大会である<sup>1,2</sup>。本大会には、学生や研究者等の特許の初級者向けの「スチューデントコース」と特許検索日本一を競うプロ向けの「アドバンストコース」があり、いずれのコースでも成績に応じたレベル認定を行っている。

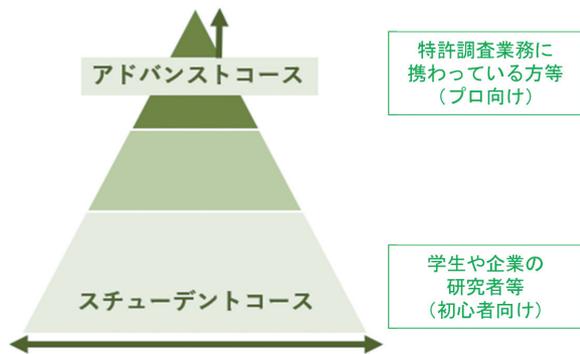


図1 特許検索競技大会のコース

本稿では、スチューデントコースの概要を紹介するとともに、スチューデントコースの2022問題を本稿執筆時点までに受験した495人の成績の分析結果等を紹介する。

- 1 福田聡「IPCCにおける特許情報を活用した新規事業の開拓について」、Japio YEAR BOOK 2019、2019年11月1日発行、P116-123
- 2 津幡貴生、田中麻衣「コロナ禍における特許検索競技大会の開催」、Japio YEAR BOOK 2021、2021年11月1日発行、P160-164

表1 特許検索競技大会の各コースの概要

コース名／試験時間	開催形式
スチューデントコース 80分	「サテライト開催」(通年) Web 試験形式で 学校や勤務先で受験 「リモート開催」 ご自宅や勤務先で受験
アドバンストコース 4時間	「会場開催」 財団の用意した会場で受験 「リモート開催」 ご自宅や勤務先で受験

### 2 スチューデントコース

#### (1) 参加状況

無料で受験できる「スチューデントコース」の「サテライト開催」の参加者が大きく増加している。参加校の先生からは、特許検索の演習問題を自分で作成すること



図2 スチューデントコース参加者数の推移

は困難で、解説テキストなども整備された特許検索競技大会は有用であるため、ぜひ次年度も授業で活用したいといった声などが寄せられている。

2021年度に高校生も参加し始め、当時はそれが珍しかったためか、参加校が地元のケーブルテレビで取り上げられるといったケースも出ている。

## (2) 問題構成

スチューデントコースは、特許の初心者でも挑戦できる問題構成となっている。80分の試験時間の間に、問題を解きながらJ-PlatPatの使い方、公報の読み方、分類の使い方を学ぶことができ、特許検索にも挑戦することができる。なお、2022問題までは試験時間を90分としていたが、2023問題から授業時間中に大会を実施しやすいように試験時間を80分に変更している。

2022問題は、問1、問2で問題文に沿ってJ-PlatPatを操作しながら検索の基礎を学び、問3で実際の先行技術調査に近い問題に挑戦できる問題構成となっている。

表2 2022問題の各大問の出題内容

問1	J-PlatPatの使い方（商標・意匠） 商標・意匠の検索
問2	J-PlatPatの使い方（特許） 分類の使い方と特許公報の読み方
問3	先行技術調査への挑戦 検索式の作成と新規性の判断

スチューデントコースの過去問やその解説は、特許検索競技大会ホームページから無料でダウンロードできるため、右のQRコードにアクセスして実際の問題を試していただきたい。



## (3) 成績表と認定証

受験者には成績表と解説テキストを送付している。生徒は、成績表を基に理解を深めることが可能になる。また、先生は、生徒の正答率が高い問題や低い問題を把握できることから、今後の指導にメリハリをつけることができる。

さらに、一定のレベルをクリアした者には認定証を交付している。多くの学生参加者は、認定証を就職活動時のアピール材料の一つにしているようである。



図3 スチューデントコース認定証（見本）

## (4) サテライト開催

サテライト開催は、申込者自身が以下の3点を用意して、参加者が自分の学校等で受験する開催形式である。開催希望日の2週間前までに大会事務局へ申し込む必要がある。

- ①開催施設（会議室、パソコン教室等）
- ②参加者人数分のインターネットに接続できるPC（Google Chrome 又は Microsoft Edge の最新版ブラウザ、J-PlatPat が使用可能であるPC環境が必要）
- ③試験監督者1名以上を会場内に配置



図4 スチューデントコースのサテライト開催の様子（山口県立田布施農工高等学校）

名称はスチューデントコースであるが、学生だけに参加者を限っているわけではない。簡単な検索であれば自分のできるようになって欲しいと考えている企業などでもサテライト開催を実施可能である。自社で演習問題を用意することは負担が大きいいため、新入社員向けや研究者向けの研修などにサテライト開催を実施する企業も増えている。社内研修に特許検索やJ-PlatPatの使い方の講義を盛り込む場合には、サテライト開催も検討いただきたい。

### 3 成績の分析結果

スチューデントコースでは、総合得点が100点中70点以上、かつ、3つの大問の得点率がいずれも60%以上である場合に認定証を交付している。受験者495人中229人(46.2%)に認定証を交付しているが、高校生では139人中16人(11.5%)にとどまっている。

表3 属性別の認定状況と平均点

属性	参加者	認定者	平均点
高校生	139人	16人	53.3点
高専生	117人	77人	81.7点
大学生	221人	121人	78.6点
社会人	18人	15人	85.6点
合計	495人	229人	72.4点

大問別の平均点では、商標・意匠を扱う問1は認定基準を大きく上回るのに対して、問2、問3は相対的に低い点となっている。

表4 各大問の平均点

	問1	問2	問3
配点	25点	35点	40点
平均点 (得点率)	21.6点 (86.5%)	20.8点 (59.3%)	30.1点 (75.1%)

高専生と大学生の各大問の平均点に大きな差は認められないが、高専生や大学生の平均点と高校生の平均点では一定の差が認められ、特に問3で差が顕著になっている。高校生の問3の後半の設問の多くは正答率が2、3割となっているため、問3の後半の設問の回答の前提となる技術的な内容理解が困難であった可能性がある。

表5 属性別の各大問の平均点

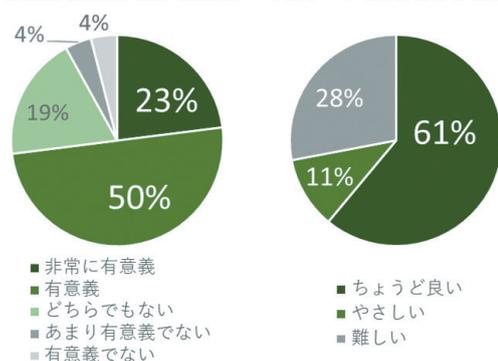
	問1	問2	問3
高校生	17.7点	14.4点	21.2点
高専生	23.4点	23.7点	34.6点
大学生	23.1点	22.6点	32.9点
社会人	22.8点	28.6点	34.2点

### 4 参加者の反応

参加者に実施したアンケート調査の回答を集計すると、有意義、非常に有意義と回答している者が参加者の7割超を占めている。また、問題の難易度は約6割が、大会時間は約8割が、ちょうど良いと回答している。そして、約6割の参加者が認定証を就職活動等で活用予定と回答しており、就職活動に対する学生の積極的な姿勢がうかがえる。

多くの者はちょうど良い難易度だと回答しているものの、問2と問3では特許公報を読解して内容を理解する必要があり、高校生の問2と問3の平均点が他を下回ったことから、馴染みのない特許公報の記載内容にとまどった高校生が多かった可能性がある。

大会に参加していかがでしたか 問題についてはいかがでしたか



大会時間はいかがでしたか 認定証をどのように活用しますか

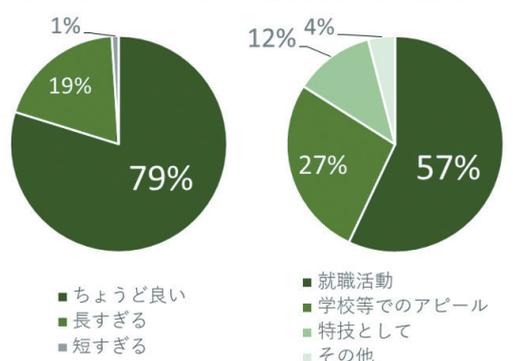


図5 サテライト開催参加者へのアンケート結果

参加者や監督者の先生からは様々なコメントをいただいているが、好意的なコメントが多い。これまで特許検索をしたことなかった者でも、将来に役立つスキルだと感じる事ができていたり、興味を持って取り組んでいただけていたりすることがわかる。

また、参加校の先生からも、特許検索の演習は準備負

担の関係から困難であったが、サテライト開催を活用することで容易に実施できる旨のコメントをいただいている。

## 5 おわりに

スチューデントコースは、初めての特許検索であっても認定証を取る者がみられる難しすぎない難易度であり、学生でも十分取り組むことができる内容である。企業の研究者や知財担当者などの初めて特許検索をする者を対象とした研修などでも十分に活用いただけるだろう。

スチューデントコースのサテライト開催は、無料で実施することができるため、特許検索経験が浅い者を対象とした研修を企画する際には、選択肢の一つとして積極的に参加を検討いただきたい。

学生Aさん 「J-PlatPat」は名前しか知らなかったが、今回学んでみて身につけておいたほうが良い技能であると感じた

学生Bさん 卒業研究や就職活動のときに役立てたいと思った

学生Cさん とても新鮮な体験だった。実際に検索をやってみると、思っていたほど難しくなかった

学生Dさん 試験問題を解きながら知財の勉強ができるよう設問の仕方が工夫されており、わかりやすかった

図6 学生参加者からの主なコメント

先生Xさん 特許検索の演習を自分で作成するのは負担があるため、ありがたい

先生Yさん 次年度も参加したいので、よろしくお願いいたします

図7 参加校の先生からの主なコメント

本大会に参加したい、詳しく聞きたいといった場合は、お気軽に特許検索競技大会事務局にご相談いただきたい。

問い合わせ先

特許検索競技大会事務局

電話 03-6665-7877

Mail kikaku-bu@ipcc.or.jp



また、スチューデントコースで特許検索スキルを身に着けた後には、アドバンストコースに挑戦することもできる。特許検索スキルをさらに磨いて日本一を目指す者が一人でも増えることを期待している<sup>3</sup>。



図8 アドバンストコースの表彰式  
(胸章をつけた8名がゴールド認定者)

### 参考 IPCC とは？

IPCC は、1985年に設立され、1989年から特許庁の審査のための先行技術調査を開始し、最大手の先行技術調査機関として全技術分野の特許調査業務を日々行っている。

2013年からは、「特許検索競技大会」を主催することを通じて特許検索の重要性の普及に努めている。

3 特許検索競技大会 特別寄稿

<https://www.ipcc.or.jp/contest/specialevents>

2022大会の最優秀賞受賞者、三分野ゴールド制覇賞受賞者、ゴールド認定者のコメントを掲載